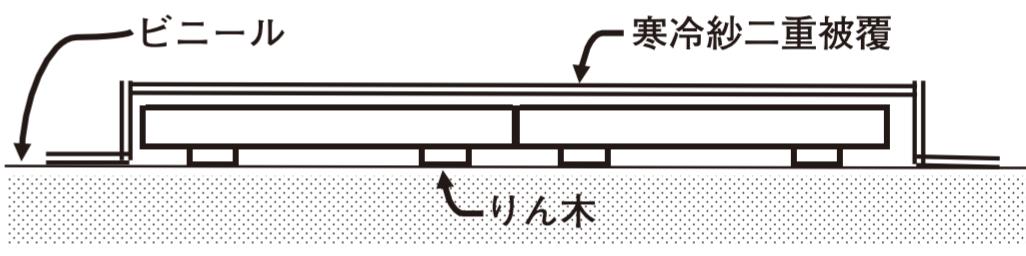
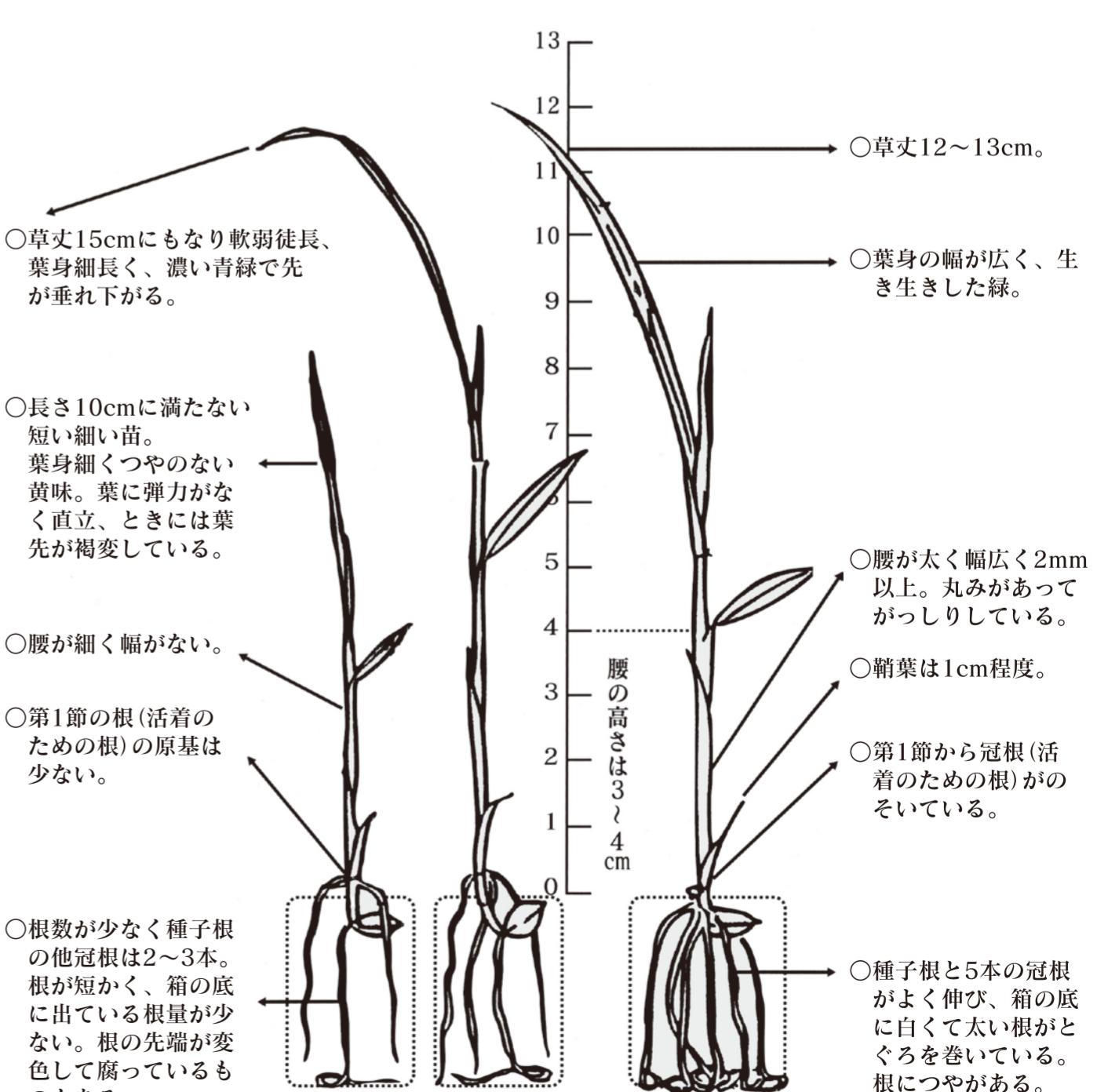


# 水稻育苗基準

三浦町農業協同組合  
久留米普及指導センター  
作成: R6.3現在

積重ね出芽は高温に遭遇すると高温障害やカビの発生を招く恐れがあるので、  
5月以降の播種時は平床出芽とする。

主な作業	栽培法及び注意事項	主な作業	栽培法及び注意事項															
育苗場所の選定	①育苗場所は、日当たりや風通しの良い、平らな場所とする。 ②播種直後に30℃を超える日が続くと苗立ち枯れ症の発生リスクがあがるため、熱がこもりやすい場所での育苗は避ける。	平床出芽	①苗箱が傾いていると高い方の出芽や生育が不良となるので、床面を十分均平にし、ビニールを敷き、りん木を並べる。 ②覆土後直ちに育苗箱を苗床に並べ、その上を寒冷紗の二重被覆をする。 ③寒冷紗の被覆期間は二重を5~7日(苗長3~4cm)、その後一重にし2~3日(苗長4~5cm)で完全に外す。 ④水管管理 (1)日射が強く、風の強い日などはとくに床土が乾きやすいので、朝からこまめにかん水する。 上部からかん水する場合は、出芽前は日に1回、出芽後は日に2~3回ムラなくかん水する。 (2)夕方(日没後)のかん水は原則として避ける。 (3)被覆除去後下部給水の場合、揚床水苗代とし、1日1回、苗代の床面まで湛水して、十分吸い上げた後、直ちに落水する。															
苗箱の準備	①苗箱はよく水洗いして使用する。																	
床土の準備	○育苗培土の場合 ・1箱当たり3.0kgが目安(床土2.0kg、覆土1.0kg) ・昨年開封した培土は使用しない(カビが発生しやすい)																	
種糞の準備	○山土の場合 ・pH5~6のものに、粗粒くん炭を容積比で3割程度混和する。 ・1箱当たり5ℓ準備し(床土は3.6ℓ、覆土1.4ℓ)、育苗肥料(4-4-4)を1箱当たり20g混和する。																	
塩水選	①種子更新は毎年行う。 ②種子は10a当たり購入種糞3~4kgを準備する。  「購入種子の場合は比重選別機を通しているため、基本的に塩水選は不要。」 ①病害の入っていない種糞となるようよく塩水選をする。 ②塩水の比重は卵又は比重計を用いてはかる。 ③塩水選した後の種糞はよく水で洗い流す。	はぐる時期の目安	苗箱の設置の仕方 															
	1.13 1.08 卵	(注) 食塩か 硫安のいずれ かを用いる。																
種子消毒	①下記の薬剤で24時間浸漬する。  <table border="1"><thead><tr><th>種糞量</th><th>水量</th><th>薬剤名</th><th>使用料</th><th>適用病害虫</th></tr></thead><tbody><tr><td>10kg</td><td>20ℓ</td><td>テクリードCフロアブル</td><td>100ml</td><td>いもち病 ばか苗病 もみ枯れ細菌病</td></tr><tr><td></td><td></td><td>スミチオン乳剤</td><td>20ml</td><td>イネシンガレセンチュウ</td></tr></tbody></table> ※苗いもちが心配される場合は、ベンレート水和剤20gを混和する。 ※消毒効果を高めるために、種糞は網袋に詰め過ぎないようにする(6割程度)。 ※浸漬中に網袋を動かさなどし、薬液を数回かき混ぜる。 ②種子消毒後は、洗い流さずに浸種に入る。	種糞量	水量	薬剤名	使用料	適用病害虫	10kg	20ℓ	テクリードCフロアブル	100ml	いもち病 ばか苗病 もみ枯れ細菌病			スミチオン乳剤	20ml	イネシンガレセンチュウ	弁当肥	○田植えが遅くなった場合や苗の葉色が薄い場合に施用する。 ○施用時期:田植えの4~5日前の夕方(高温、乾燥時は避ける)。 ○施用量:硫安水300倍液を1箱当たり500ml(20箱の場合は水10ℓ当たり硫安33g)
種糞量	水量	薬剤名	使用料	適用病害虫														
10kg	20ℓ	テクリードCフロアブル	100ml	いもち病 ばか苗病 もみ枯れ細菌病														
		スミチオン乳剤	20ml	イネシンガレセンチュウ														
浸種・催芽	①浸種期間は種子消毒の24時間を含めて4~5日程度(積算水温100℃が目安)。 ②浸種中は酸素補給のため毎日水をかえる。また、上下で水温が違うため、芽出しが揃うように上下の網袋を入れ替える。 ③催芽の程度は鳩胸の状態(0.5~1mm程度発芽)が9割程度を目安とする。 ④播種作業がスムーズに行くように種糞は播種前日に水揚げし、半日程度陰干しする。	健苗のかたち																
播種	①田植予定日から育苗日数(平床出芽は22~24日)をさかのぼって播種日を決める。5月27日以降に播種する。 ②床土を入れた箱は播種前に十分かん水して播種する。 ③かん水後に苗立枯病の対策でタチガレースM液剤500倍を1箱当たり0.5ℓかん注する。 ④播種量は1箱当たり催芽糞で150g(1合3勺)とする。	播種後22~24日 2.3~2.5葉																
覆土	①覆土は種子が完全にかくられる程度とする。なお平床出芽では必ず育苗培土(1kg)を使用する。	○わるい稚苗	○理想の稚苗															
播種量の目安	○密苗(1箱に催芽糞200~300g播種)についての注意点 ・専用の播種機、田植え機が必要であるためメーカーの説明に従って育苗する。 ・播種量が多く、苗質が劣る傾向がある(特に病気の発生には注意が必要)。	 播種量/箱 乾糞 催芽糞 育苗日数 田植適期 苗箱数/10a 120g (1合) 150g (1合3勺) 20日~28日 23日 17箱																